

2020年度の事業報告書

令和2年4月1日から令和3年3月31日まで

認定特定非営利活動法人まなびと

◇ はじめに

令和2年(2020年)度は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、活動の在り方を大きく見直さなければならぬ一年となった。緊急事態宣言下で臨時休校措置が取られ、子どもたちが朝から晩まで学童にいる日が4か月近く続いたり、大学が休校になったためにボランティアの大学生スタッフをオフラインの場で確保することが難しくなったりなど、活動に対しての需要と供給のバランスに今までの在り方からは変化が見られた。

そんな中で、活動の拠点を一つに集約していくことを理事会で決議した。それに伴い放課後学びスペースアシストの学園都市教室、甲子園教室は2021年3月をもって閉校した。また学童保育北野くん家、まなびと北野基地と二つに分かれていた北野の拠点を、2021年度から新しい場所に統合することを決めた。

また、今年度はコロナ禍においてオンラインでのサポートの在り方を模索した一年でもあった。緊急事態宣言下において、「日本語教室だんらん」の活動をオンラインへと切り替え、生徒とボランティアの募集を全国に展開。また、「こどもべやオンライン」というプロジェクトを立ち上げ、コロナ禍で人との関わりの機会が減少してしまっている子どもへのオンラインでの居場所提供の可能性を模索した。

◇ 事業の成果

(1) 青少年の居場所づくり・まなびの場づくり事業

◆ 放課後学びスペースアシスト事業

【学園都市校】

学園都市校では、令和2年4月1日～令和3年3月31日の間、週1回(毎週木曜日18時30分～21時00分)、BRANCH神戸学園都市内にあるまちづくりスポット神戸が運営するコミュニティールームにて教室を開いた。

◇ 生徒数

(7月以降) 中学3年生1人、中学2年生1人、(10月以降) 小学6年生2人

◇ コロナ禍での対応

緊急事態宣言下の活動はオンラインに切り替え

6月から場所をコミュニティールームからフードコートに移した。

年明けの2月よりさらに場所をカフェなどに移した。

◇ 行った取り組みと成果：

各生徒とコミュニケーションを常に取りながら、それぞれが望む勉強のサポートをした。中学生二人に対しては、勉強したことを復習する習慣をつけてもらえるように取り組んだ。二人の生徒に共通して、「自分の勉強の進捗を把握していない」ことが課題であったため、身の回りの物を整理することや、自分の行動を記録すること、自身の内面を分析することなどに取り組ませた。結果として、宿題を忘れるといったことが減った。

小学生2人は、中学入学前の算数の復習に取り組んだ。基本的な知識は身につけていたので、それらを複合させて問題を解く練習を積ませた。解法を順序立てて考えて、それを順序だった式として表現することに苦戦していたが、少しずつ

できるようになってきた。当該二人の内の一人の生徒は、漢字を覚えるのが苦手だったので、一年生の漢字から覚え直すことに取り組んだ。毎回少量の漢字テストで満点を取ることを繰り返させ、自信がついた様子で、漢字に対する拒否反応がなくなった。

また、参加者全員参加する企画を毎回実施するなどして、全員が居心地の良い教室を目指した。さらには、各保護者とのコミュニケーションも積極的に取った。

教室は3月で閉校し、所属する生徒は、プロジェクトを担当していた日下が退職後に個人で関わりを持つことになっている。

【甲子園校】

甲子園校では、令和2年4月1日～令和3年3月31日の間、週1回（毎週金曜日18時30分～20時30分）、地域交流を目的とした住み開き型レンタルスペースであるまんまるみかんにて教室を開いた。

◇ 生徒数

高校3年生1人、中学2年生1人

◇ コロナ禍での対応

4月2週目～5月2週目は教室を休校とした。

◇ 行った取り組みと成果：

各生徒とコミュニケーションを常に取りながら、それぞれが望む勉強のサポートをした。

高校生の生徒に対しては、大学受験が控えていたので、進路の相談に乗りながら、一般入試に向けて、主に英語の勉強をサポートした。夏の段階で、中学英語の文法はマスターできていることが確認できたので、語彙力の上積みを試みた。年明けからは、推薦入試に向けて、論文と面接の練習に時間を割いた。結果、応募者30人以上の中から、見事に最終合格の7人に入ることができた。進路が決まった後は、入学後のことを視野に入れて、映像作品についてディスカッションをしたり、時事問題をどのように作品に取り込むかの勉強をしたりした。

中学生の生徒は、苦手な英語の勉強をサポートした。当該生徒の英語の習得進捗が捗らない原因として、当該生徒が自身の進捗現状を正確に把握できていないことや、英語への興味の薄さが考えられたので、そこにアプローチする方策を考え実行した。年の初めには授業中に眠ってしまうことも多かったが、それもなくなり、自身ができることと、できないことを認識できるようになった。

勉強の補助に加えて、参加者全員にとって居心地の良い教室をつくることを心掛けた。その結果3月で教室は閉める運びとなったが、生徒二人とその後も関わりを持つことができている。

【神戸真生塾校】

2020年11月から、大倉山にある神戸真生塾でのアシストの活動を開始した。児童養護施設に在籍する児童に対して、週1回クラスを設置した。この教室は、今後北野での新しい拠点で行うアシスト事業と連携する。

◆ 神戸こども探険隊事業

本事業は、神戸北野エリアにて、子どもたちが放課後に安心して学んだり遊んだりできる場所をつくることを目的に、令和2年4月1日～令和3年3月31日の間、週2回（毎週火曜日と水曜日15時～19時）実施した。令和2年11月30日までは、「まなびと北野基地」にて実施し、12月1日からは学童保育北野くん家の場所を利用して実施した。

新型コロナウイルスの感染拡大を受けて今まで利用してくれていた児童が利用を控えるケースが多かった。そんな中でも、「探険隊」という時間を楽しみにしてくれる学童の子どもたちや、その友達も参加して、子どもたちも日々の遊びや出会いを制限される中で、地域の居場所として活動を継続できた。

◆ 学童保育事業

本事業は、神戸北野エリアにて、子どもたちの放課後の安全な居場所の確保と、そこで過ごす内に、新しい発見や学びを得てもらうことを目的に令和2年4月1日～令和3年3月31日の間、当法人が運営する学童保育所「北野くん家」にて実施した。

◆ こどもべやオンライン事業

小学校の休校措置期間中に、子どもたちが家庭学習をしなければならず、そのための環境を整えることが難しい家庭に対して支援を開始した。

募集に対して申し込みのあった世帯に対し、Zoomを用いて支援を実施。学習のモチベーションづくりや習慣づけを目的として家庭が希望される頻度でクラスを設けた。

学校休校措置が終わった後も、継続して支援が必要な家庭には活動を継続している。

(2) 在住外国人の社会参画促進事業

◆ 日本語教室だんらん事業

本年度は4月に緊急事態宣言が出たことで、従来のオフラインでの活動に参加する外国人学習者、ボランティアスタッフがなくなった。そこで、緊急事態宣言下でも人との関わりを得られるようにオンラインでの活動をスタートさせた。

Zoomを使って月曜日・水曜日の夜に教室を開催。その後、土曜日の午前、火曜日・木曜日の昼過ぎのクラスを増やした。

生徒、スタッフ共にオンラインでの募集を行い、どちらも全国から応募が届いた。緊急事態宣言解除後、6月からはオフラインの活動も再開した。

オフライン、オンラインそれぞれ日本語を学ぶことを通じて、日本人と外国人の国籍や文化、宗教といった枠を越えたコミュニティを形成することを目的として活動した。参加者の要望、レベルに合わせて、会話を通しての日本語学習の他、テキストを使った学習、日本語検定に向けた試験対策、就職活動におけるエントリーシート記入や、面接の対応の練習など必要なサポートを行った。

(3) 多文化共生理解促進事業

◆ 本年度は実施なし

(4) 地域コミュニティづくり支援事業

◆ ちいき食堂

子どもを中心に地域の多様な方々が交流できる場を創ることを目的にちいき食堂を実施した。

(5) 調査研究事業

本年度は実施なし

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

| | 具体的な事業内容 | (A)当該事業の実施日時 (B)当該事業の実施場所 (C)従事者の人数 (※スタッフの数) | (D)受益対象者の範囲 (E)人数 |
|-----------------------|---|---|---|
| 青少年の居場所づくり・まなびの場づくり事業 | 「放課後学びスペースアシスト」以下3校の運営 ① 学園都市校 ② 甲子園校 ③ 神戸真生塾校 | (A) 通年：学園都市・甲子園校・六甲校週1回 11月から神戸真生塾校週1回(月3回) (B) 神戸市内・西宮市内 (C) ① 2名 ②5名 ③2名 | (D) 小・中・高校生 (E) ① 4名 ① 2名 ② 4名 |
| | 「神戸子ども探険隊」 | (A) 通年：週2回 (B) 北野基地 (C) 4名 | (D) 小・中学生 (E) 5名程度 |
| | 北野くん家 | (A) 通年平日・土曜日 (B) 北野くん家 (C) 10名 | (D) 小学生 (E) 30名 |
| | 子どもべやオンライン | (A) 休校期間中平日午前中随時、休校期間終了後 週1~2回 (B) オンライン (C) 15名 | (D) 小学生 (E) 5名 |
| 在住外国人の社会参画促進事業 | 「日本語教室だんらん」オフライン | (A) 月曜・水曜 (B) 北野基地・事務所 (C) 10名 | (D) 日本に住む外国人 (E) 5名程度 |
| | 「日本語教室だんらん」オンライン | (A) 週5回 (B) オンライン (C) 200名 | (D) オンラインで参加できる外国人 (E) 200名程度 |
| 多文化共生理解促進事業 | 実施なし | | |
| 地域コミュニティづくり支援事業 | ちいき食堂 | (A) 通年火曜・木曜 (B) 北野基地・事務所 (C) 2名 | (D) 小学生や大人 (E) 5名程度 |
| 調査研究事業 | 実施なし | | |

(2) その他の事業

| 事業名 (定款に記載した事業) | 具体的な事業内容 | (A)当該事業の実施日時 (B)当該事業の実施場所 (C)従事者の人数 | 事業費の金額 (単位：千円) |
|--------------------|----------|---|----------------|
| 実施なし | | | |